

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：人文学部

事業担当者の職・氏名：教授 吉田悦子

内線電話番号：9144

電子メール：tantan@human.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

春季海外オンライン研修（ニュージーランド・マッセイ大学）

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)


本事業は、英語運用能力の向上と現地学生交流を目的とし、三重大学人文学部の学生向けに設計されたオンライン海外研修プログラムである。マッセイ大学（ニュージーランド）の英語プログラムを基盤として、現地大学教員による経済学の講義とディスカッション、バーチャル企業訪問、現地学生とのフリートーク、異文化理解をテーマとしたプレゼンテーション、を含めている。また、学生が主体的・対話的な学習に取り組むことを促し、卒業要件であるインターンシップ条件（10 時間以上）を満たす 3 日間（2 月 21 日～23 日）のプログラムである。新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航の制限や企業のインターンシップ受け入れ制限がかかる中、本事業は、英語の 4 技能を実践的に学ぶ機会を提供し、異文化理解の促進と国際感覚を併せ持つ人材の育成に大きく貢献できたと言えよう。学部として初めての試みであったが、学生からの事後アンケートからは、「英語学習の強い動機付けになった」「英語によるプレゼンテーションのスキルが身に付いた」「積極的に挑戦することの重要性を感じた」「海外の同世代の人との交流を通じて、他者とコミュニケーションをとる重要性を感じた」などの記述が見られ、国際的な視野の広がりや、異文化への適応力の高まりが認められ、今後も大きな成果を上げることが期待される。

(2) 事業の背景・これまでの実績

人文学部では、2012 年度から毎年夏季に英国オックスフォード大学ハートフォード・カレッジとの英語研修プログラムを実施しており、継続的に学生の派遣を行ってきた。しかし、コロナ禍で 2020 年度以降学生派遣は中止になり、今年度、これに代わるオンライン英語プログラムの実施が喫緊の課題であった。これまで人文学部とマッセイ大学との交流はなかったが、JTB 三重、JTB オークランド、現地スタッフとの連携と、学部の全面的な協力により、3 日間のオンライン英語研修プログラムの立ち上げが実現し、代替プログラムとして実施することになった。

(3) 事業実施結果

2021 年 12 月 7 日に現地スタッフも参加して、参加学生募集の説明会を Zoom で行った。参加者の中から、15 名の学生（文化学科 8 名、法律経済学科 7 名）が応募し、登録手続きを行った。2022 年 2 月 18 日に事前オリエンテーションを Zoom にて実施し、参加者の自己紹介、プログラムのスケジュール、参加方法（Stream と呼ばれる現地大学のプラットフォーム）の紹介を行った。



三重大学人文学部対象
春季海外研修ニュージーランド・マッセイ大学（オンライン）

このプログラムの特徴

- Point 1** インターンシップ卒業要件を満たすプログラム
- Point 2** 世界上位の大学が提供するオリジナルプログラム
- Point 3** 講義、バーチャル企業訪問を通してNZの社会・経済を学ぶ
- Point 4** ディスカッションやプレゼンを通して語学力・表現力を磨く

<スケジュール> ※プログラム内容は変更となる可能性があります。

	日本時間	プログラム内容
2/21 (月)	09:00~09:30	ウェルカムオリエンテーション
	09:30~11:00	プログラム導入
		休憩
	13:00~14:30	大学講師からのレクチャー（NZの経済について）
	14:30~15:00	Q&Aセッション
2/22 (火)	09:00~10:00	英語クラス（企業訪問に向けての準備）
	10:00~11:00	バーチャル企業訪問
		休憩
	13:00~14:00	英語クラス
	14:00~15:00	マッセイ大学学生との交流
2/23 (水)	09:00~10:30	プレゼンテーション
		ディスカッション&フィードバック
	10:30~11:00	フェアウェル

■プログラム期間

2022年2月21日（月）～2月23日（水）

主催：三重大学人文学部

■参加費用

1人@¥10,000

※三重大学国際交流事業経費及び人文学部からの補助が出ています。

■講義形式

オンライン（Zoom形式）

■募集期限

～令和3年12月22日（水）まで

■最少催行人員

両方の研修で合わせて25名まで。25名を超えた場合は先着順となります。

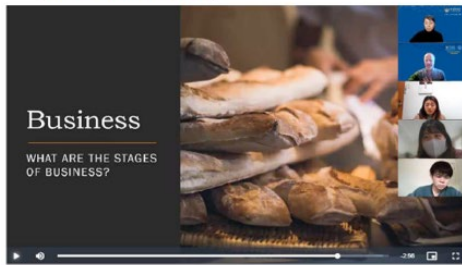
■申込方法

Moodleにて提出

※説明会の出席希望者はMoodleの希望するコースに自己登録をすること。

・1日目は、午前中の英語授業で、自己紹介、プログラムの説明、プレゼンテーションのグループ分けと午後の講義への準備、を行った。午後は経済についての現地教員による講義と質疑応答、グループワークを行った。Zoomのチャット機能やブレイクアウトを活用して、学生の積極的な授業参加と双方向性を重視したプログラムが展開された。

経済についての講義中



・2 日目は午前中の英語授業でニュージーランドの文化紹介、続いてバーチャル企業訪問 (Medical Collagen New Zealand Ltd.) が行われ、事業者から会社概要、商品説明、オフィス見学、その後活発な質疑応答が行われた。午後は、マッセイ大学の現地学生との交流会 (現地学生 5 名が参加したグループでのフリートーク)、英語授業では、プレゼンテーションに向けた準備をグループ中心に行った。



←バーチャル企業訪問

NZの文化についての講義→



←マッセイ大学学生との交流

・3 日目は午前中にグループプレゼンテーションが行われた。3 名 1 組の 5 グループが、それぞれのトピックで日本と NZ の共通点や相違点について、順番に発表した。

発表に対しては、質疑応答と担当英語教員からの丁寧なフィードバックを受けた。終了後、フェアウェルセレモニーが行われ、担当教員のスピーチに続いて、学生一人一人に修了証書が渡され、研修についてのコメントを語り合った。全体で記念撮影を行い、研修終了となった。



<研修参加後の事後アンケート結果については、別紙参照>

(4) 事業の意義

本プログラムは、参加学生にとって、実践的英語の修得に向けた大きな動機付けになった。同時に、国際的視野を持つ人材育成、そして異文化コミュニケーション能力を促進させる国際教育の一環としても、意義のある取り組みになったといえる。こうした異文化経験は、直接的および間接的に、各専門分野での学究や成果の発信を促し、卒業後の多様な進路や実務に向けて、国際交流および地域貢献活動で活躍する人材の養成に資するものにつながり、長期的に有益な効果を及ぼすものになるであろうと期待される。

(5) 事業の発展性

本プログラムは、英国オックスフォード大学ハートフォード・カレッジとの夏季英語研修の代替プログラムとして位置付けられており、2022年度は、実施可能であれば、学生派遣を再開させ、現地での海外体験と異文化理解を通じた英語学習の機会を提供したいと願っている。一方、マッセイ大学では、通信制の伝統と経験のもとで構築された質の高い工夫に溢れたプログラムが多く、スタッフのきめ細やかな運営に定評がある。オンラインでは、渡航費や移動時間もなく、時差も少ないため、双方に負担なく提供できるメリットがある。特に、本プログラムは、オンライン・プラットフォームの高い利便性を活かして、インターンシップ要件を備えた新たな形の国際交流への試みとして、今後も活用の幅が広い。将来的に、国際的な人材育成をバックアップする研修候補として、オンライン・現地開催双方で、充実したプログラムとしてつながりを強化していくことが期待される。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

[教育に関する目標][教育全体の目標] 幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人材を育成するために、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養

成する。

→本プログラムは、リンガフランカとしての英語を実践的に学び、異文化に触れることにより、適切なコミュニケーション能力、考える力、感じる力と共に、国際社会における「生きる力」を育成する教育の一部に位置づけられる。

●[その他の目標][グローバル化に関する目標] 1 (大学と地域のグローバル化推進) 世界で活躍できるグローバル人材を育成し、国際教育・国際共同研究を充実させるために、地域社会や世界各国の大学との交流活動を活発化させ、海外の大学等との学生と研究者の相互交流を増加させる。

→本プログラムに参加した学生と、ニュージーランドの現地大学教員・現地学生との交流は、この目標に貢献できたと評価できる。マッセイ大学は、ニュージーランドの教育研究と多文化共生に貢献している大学であり、今回の研修を通して、三重大学人文学部とのつながりを強化することは有意義であると考えられる。さらに、英語研修のみならず、国際共修や文化交流を通じた国際交流活動を通して、両者の相互交流への発展が望まれる。

(7) その他

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

本事業は、英語運用能力の向上と現地学生交流を目的とし、三重大学人文学部の学生向けに設計されたオンライン海外研修プログラムである。マッセイ大学（ニュージーランド）の英語プログラムを基盤として、現地大学教員による経済学の講義とディスカッション、バーチャル企業訪問、現地学生とのフリートーク、異文化理解をテーマとしたプレゼンテーション、を含めている。また、学生が主体的・対話的な学習に取り組むことを促し、卒業要件であるインターンシップ条件（10 時間以上）を満たす 3 日間（2 月 21 日～23 日）のプログラムである。新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航の制限や企業のインターンシップ受け入れ制限がかかる中、本事業は、英語の 4 技能を実践的に学ぶ機会を提供し、異文化理解の促進と国際感覚を併せ持つ人材の育成に大きく貢献できたと言えよう。学部として初めての試みであったが、学生からの事後アンケートからは、「英語学習の強い動機付けになった」「英語によるプレゼンテーションのスキルが身に付いた」「積極的に挑戦することの重要性を感じた」「海外の同世代の人との交流を通じて、他者とコミュニケーションをとる重要性を感じた」などの記述が見られ、国際的な視野の広がりや、異文化への適応力の高まりが認められ、今後も大きな成果を上げることが期待される。

三重大学人文学部対象
春季海外研修ニュージーランド・マッセイ大学（オンライン）



このプログラムの特徴

- Point 1 インターンシップ卒業要件を満たすプログラム
- Point 2 世界上位の大学が提供するオリジナルプログラム
- Point 3 講義、バーチャル企業訪問を通してNZの社会・経済を学ぶ
- Point 4 ディスカッションやプレゼンを通して語学力・表現力を磨く

<スケジュール> ※プログラム内容は変更となる可能性があります。

	日本時間	プログラム内容
2/21 (月)	09:00~09:30	ウェルカムオリエンテーション
	09:30~11:00	プログラム導入
		休憩
	13:00~14:30	大学講師からのレクチャー（NZの経済について）
	14:30~15:00	Q&Aセッション
2/22 (火)	09:00~10:00	英語クラス（企業訪問に向けての準備）
	10:00~11:00	バーチャル企業訪問
		休憩
	13:00~14:00	英語クラス
	14:00~15:00	マッセイ大学学生との交流
2/23 (水)	09:00~10:30	プレゼンテーション
		ディスカッション&フィードバック
	10:30~11:00	フェアウェル

■プログラム期間

2022年2月21日（月）～2月23日（水）

主催：三重大学人文学部

■参加費用

1人@¥10,000

※三重大学国際交流事業経費及び人文学部からの補助が出ています。

■講義形式

オンライン（Zoom形式）

■募集期限

～令和3年12月22日（水）まで

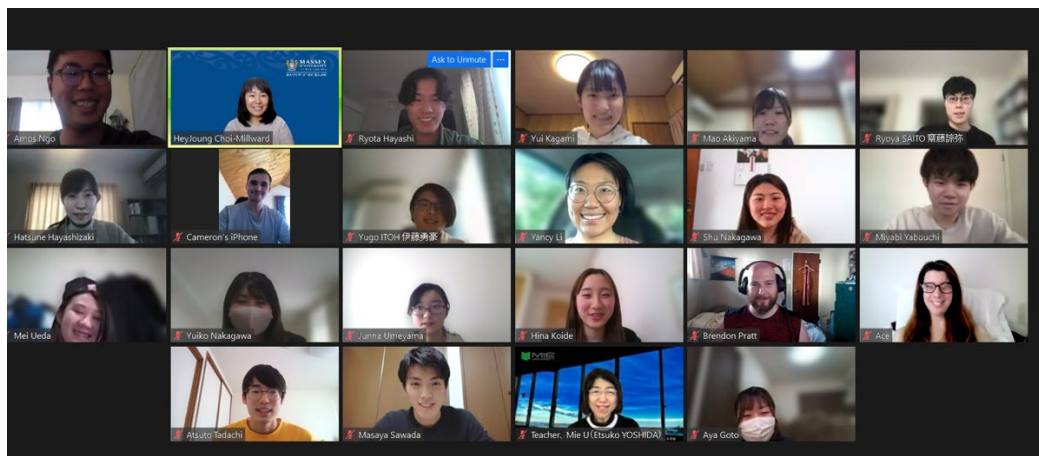
■最少催行人員

両方の研修で合わせて25名まで。25名を超えた場合は先着順となります。

■申込方法

Moodleにて提出

※説明会の出席希望者はMoodleの希望するコースに自己登録をすること。



マッセイ大学の現地学生との交流会

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

(1) Outline

In this fiscal year, 15 undergraduate students participated three-day online English program with Massey University (New Zealand) designed for the students of the Faculty of Humanities, Mie University, aiming to improve their academic level English proficiency and to have language exchange opportunities with the local university students in informal settings. The program includes intensive English classes, lectures and discussions on economics with the university lecturer, a virtual visit of the local company of New Zealand, free talk experience with the local students at Massey University, and finally, group presentations on the theme of cross-cultural understanding. The course work can encourage students to engage in independent and interactive learning and fulfill the internship requirements (10 hours or more) for their university degree. Amid the restrictions on overseas travel and the limited chances for company internships due to the impact of Covid 19, we provided them with opportunities of learning four skills of English, promoting cross-cultural understanding, and developing human resources with an international sense. According to the result of the survey taken from the students after the course, many students made positive comments such as "I've strongly motivated to learn English," "I acquired the skills to give presentations in English," and "I felt the importance of challenge myself to achieve something." "I felt the importance of communicating with others through the experience in talking with the people of the same generation overseas." This first project was successful and contributed to the faculty in the sense that the students could expand their international perspectives and could recognize their increasing adaptability to different cultures.

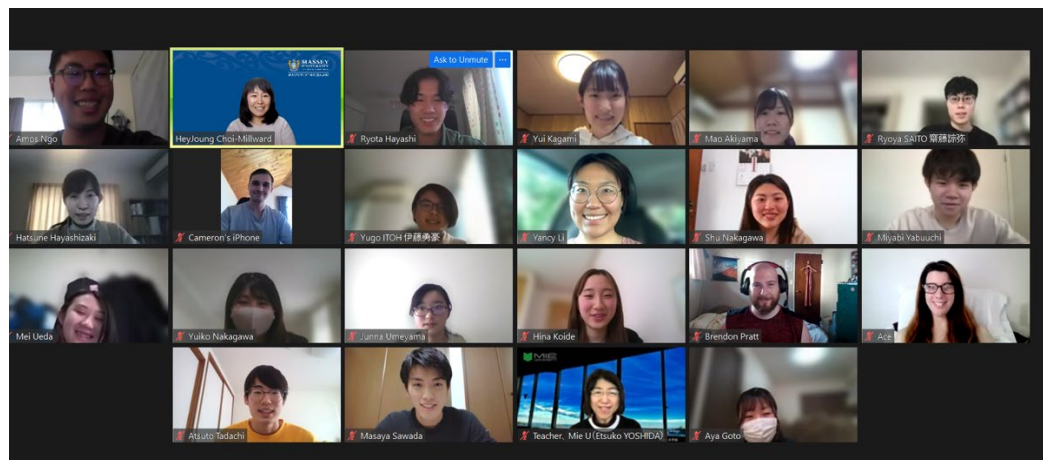
3-day online course for students at Mie University, JAPAN

Date: The 21st to the 23rd of February 2022

Group: 15 students

Focus of the online Course: Introduction to New Zealand economy and culture

Day	Time	
Day 1	9am-9.30am	Welcome orientation Introduction to the programme
	9.30am-11am	English class
	Lunch Break	
	1pm-2.30pm	Lecture: Introduction to New Zealand Economy Sam Richardson, Senior lecturer, School of Economics and Finance
	2.30pm-3pm	Q & A session (15mins x 4 teams)
Day 2	9am-10am	English class-Preparation for the virtual company visit
	10am-11am	Virtual company visit to Medical Collagen New Zealand Dr Steve Kirk, CEO of the MCNZ
	Lunch Break	
	1pm-2pm	English class-small talk, NZ culture
	2pm-3pm	Cultural Understanding class with Massey students
Day 3	9am-10.30am	Presentations by Participants Discussion & Feedback
	10.30-11am	Farewell

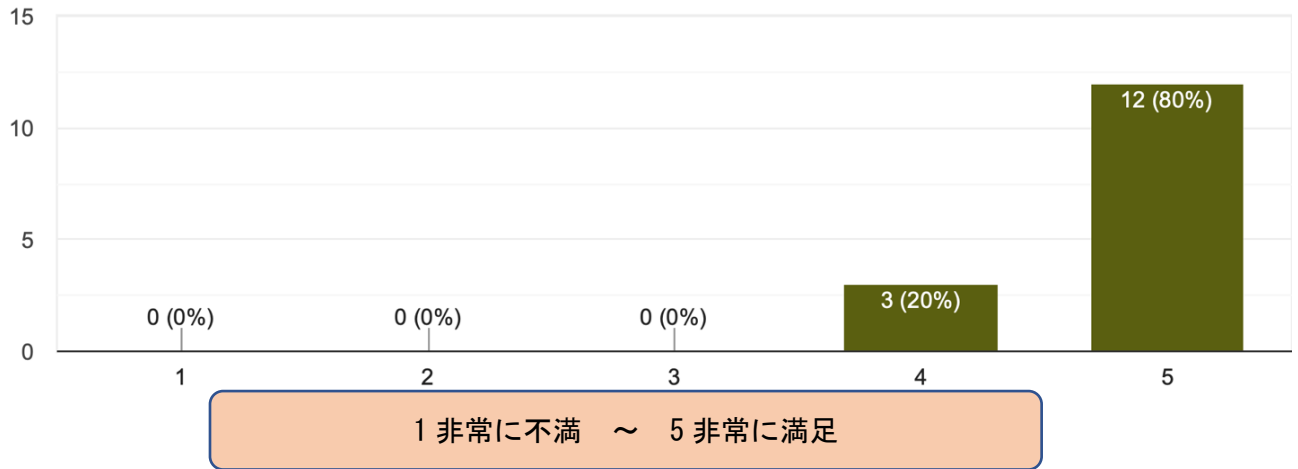


↑ Free talk experience with the local students at Massey University

研修参加後のアンケート結果(15名の回答)

全体的にこの研修にはどのくらい満足されましたか。

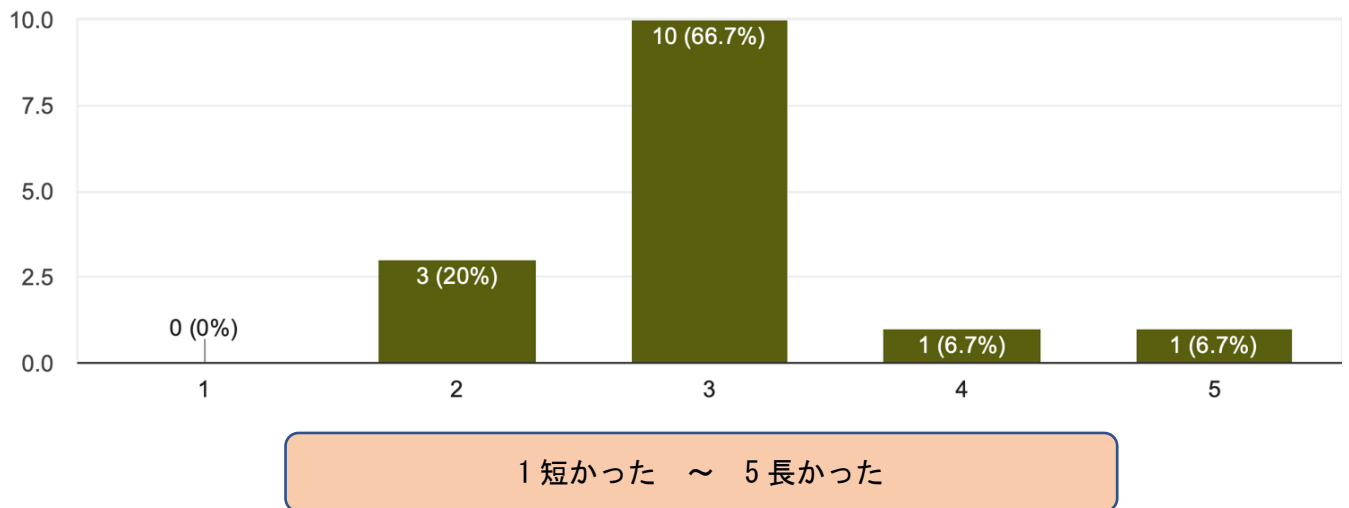
15件の回答



* 8割の参加学生が「非常に満足」及び2割の学生も「ほぼ満足」と回答しており、研修内容が満足度の高いものであったと評価される。

期間は適切でしたか。

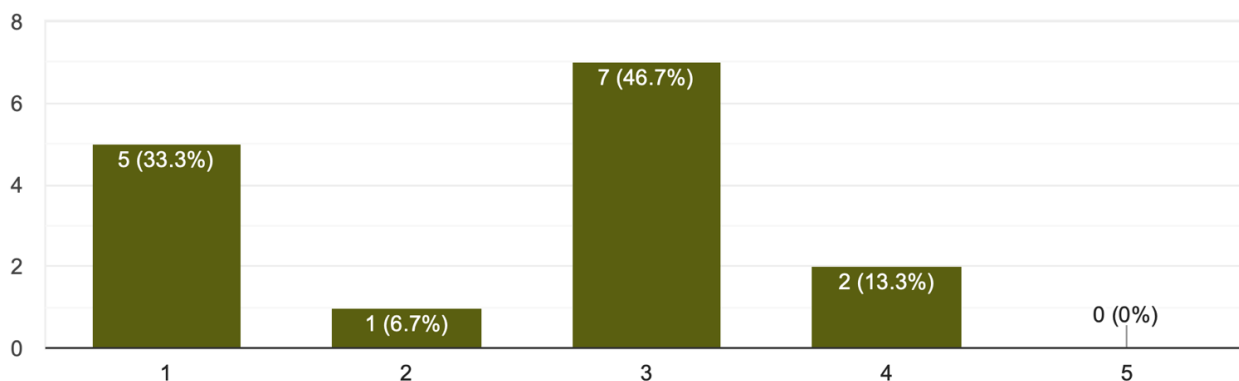
15件の回答



* 3日間の研修は、6割以上の学生が適切だったと評価している。一方、やや短かったという回答も2割あり、授業の他に、講義や企業訪問、さらにプレゼンテーションの発表準備も考えると、短時間での取り組みが多かったことから、期間が短いと感じた学生も少なくなかったと思われる(後述の自由記述を参照)

参加費用は適切でしたか。

15件の回答

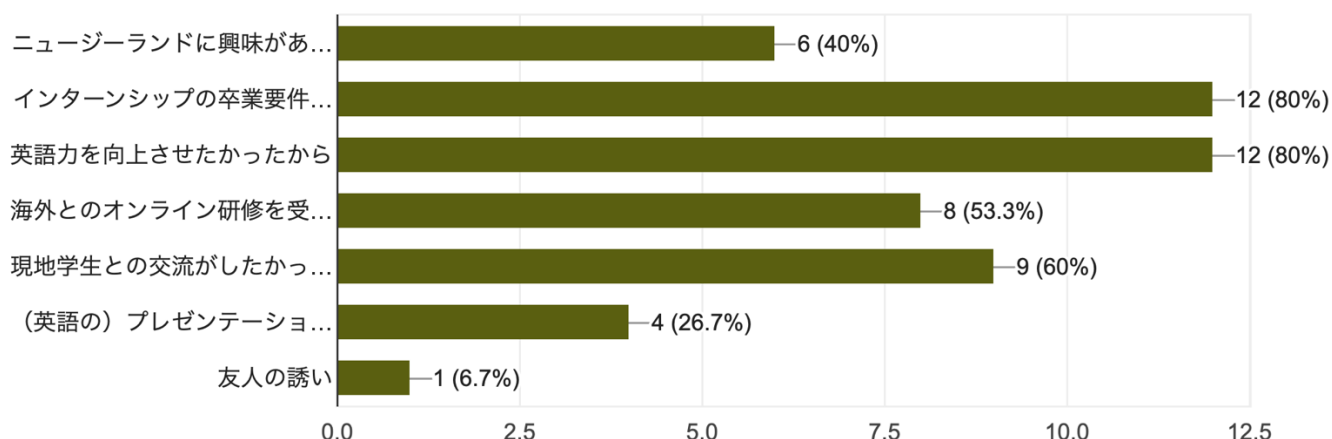


1 安かった ~ 5 高かった

*費用については、およそ半数が適正と回答し、3割以上の学生は「安かった」と回答していることから、プログラムの充実度の割には安いと感じている学生が多いと考えられる。

この研修に参加した動機は何ですか。（複数回答可）

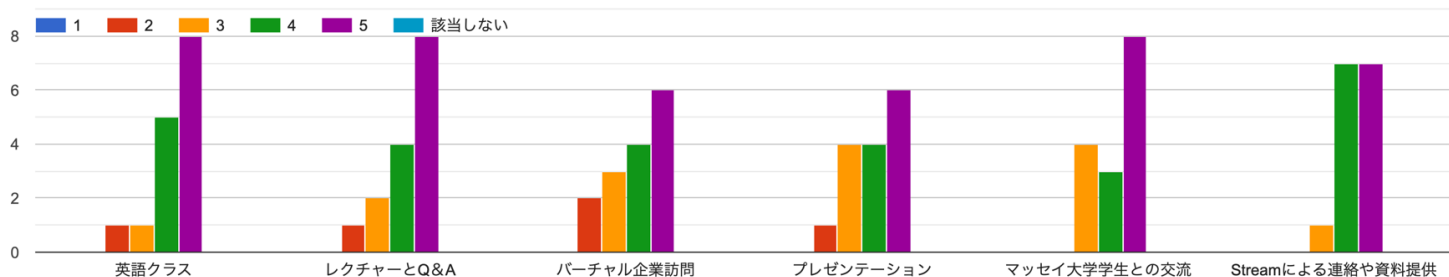
15件の回答



ニュージーランドに興味があったから
インターンシップの卒業要件が満たせるから
英語力を向上させたかったから
海外とのオンライン研修を受けてみたかったから
現地学生との交流がしたかったから
(英語の) プレゼンテーション・スキルの向上のため
その他 (友人の誘い)

*「インターンシップの卒業要件」と「英語力向上」がそれぞれ8割の回答があり、強い動機づけになったと思われる。「現地学生との交流」「オンライン海外研修」の回答もそれぞれ5割以上あり、海外とのつながりを求める強い興味関心がうかがえる。「ニュージーランドへの興味」は4割とさほど高くないものの、研修後に「ニュージーランドやマッセイ大学への興味が増した」というコメントが自由記述に随所にみられ、異文化理解への促進が見られた。

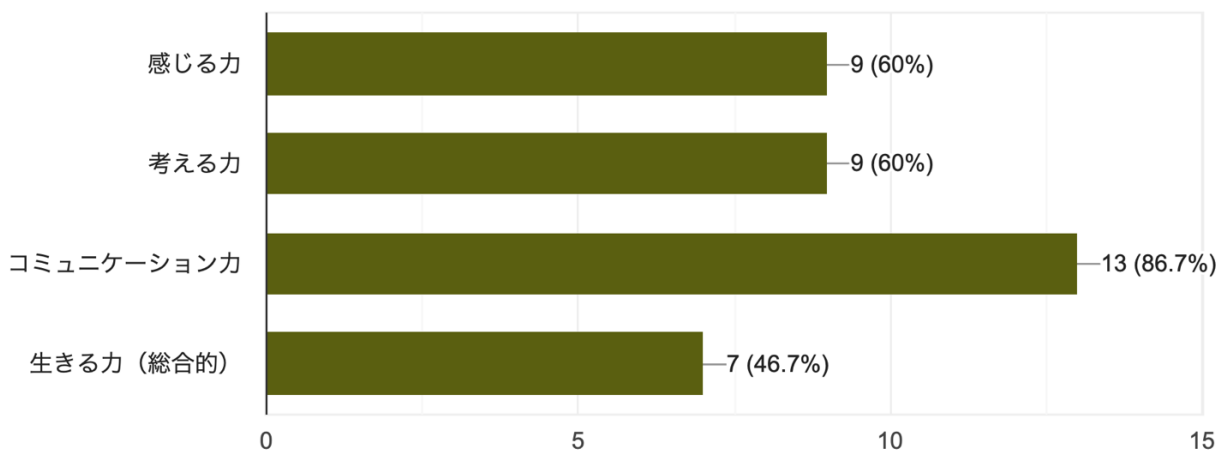
この研修で、以下の項目について、どのくらい満足されましたか。



1 非常に不満 ~ 5 非常に満足

* 全体として高い評価といえるが、中でも「英語クラス」「レクチャー」「学生交流」の満足度は非常に高いといえる。マッセイ大学のプラットフォームである Stream への満足度も高く、授業の予習復習、学生間のディスカッション、ビデオの視聴など、非常に活用性が高かった。それに比べると、「プレゼンテーション」と「バーチャル企業訪問」はやや評価が低めであるが、企業訪問は高いレベルの英語理解力が求められる（日本語通訳あり）、プレゼンは準備に時間が十分かけられなかったことへの表れではないかと思われる（自由記述を参照）。

この研修は、三重大大学の教育目標である「4つの力...るのに役に立ったと思いますか。（複数回答可）
15件の回答

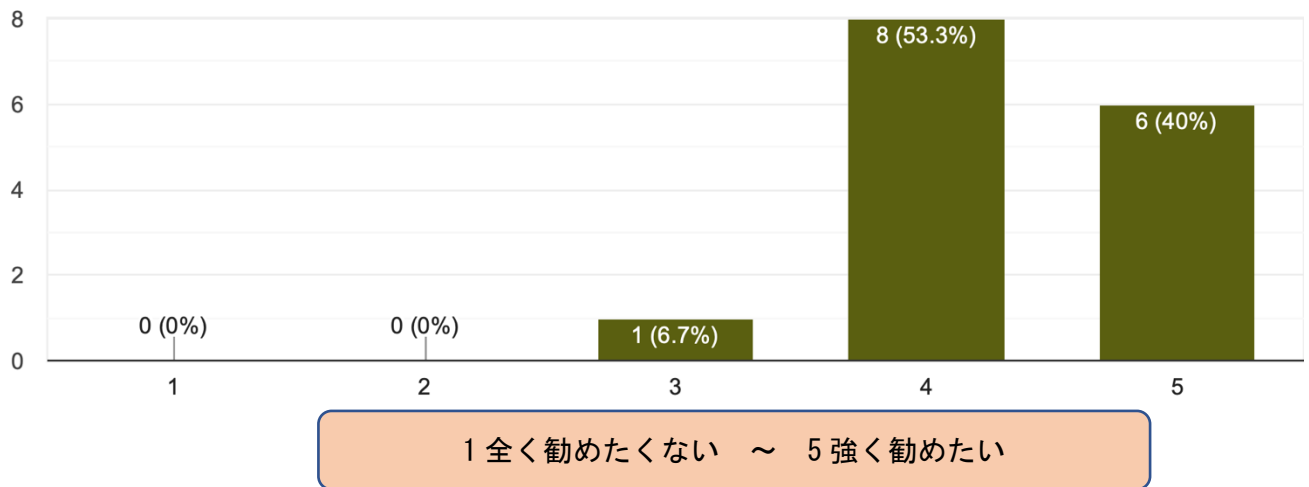


この研修は、三重大大学の教育目標である「4つの力」うち、どの力を身につけるのに役に立ったと思いますか。（複数回答可）

* 「コミュニケーション力」の回答が予想通り高く、実際に英語を使う経験をしていることを実感しているためであると考えられる。「感じる力」「考える力」もやはり、コミュニケーション力を高めるのに必要であることと関連づけられよう。

今回の研修を他の学生にも勧めたいですか。

15件の回答



* 9割以上が「勧めたい」と回答しており、研修の経験が自分にとって貴重なものであると考えている表れであると思う。

<自由記述 1>

プレゼンテーションのグループワークにおいて、3人の活動は楽しかったですか。良かったこと、うまく行かなかったこと、困ったことなど、何でも思ったことを、書いてください。

- ・日本人学生同士ながら英語を使って打ち合わせをしたのが非常に新鮮で楽しかった。
- ・準備期間が短かった割には良くできた方だと思った。
- ・和やかな雰囲気グループワークに取り組みました
- ・短期間且つ初対面の参加者同士で準備から実践に至るまで進行させていく過程では、多数の困難に直面しました。メンバーの得意な事・得意ではない事を理解するのに苦戦して、成功させることができるか否か不安に思うことがありました。最終的には、プレゼンの形として残すことはできましたが、語学の面よりもむしろ準備期間の短さに少し心配を憶えてしまいました。良かった事としては、限られた時間の中で協同作業をすることの重要性を確かめられたという点です。プレゼンを成功させるにあたってチームワークが大切であると実感し、英語でプレゼンの経験を積んでいくことの必要性を認識しました。
- ・グループメンバーの皆さんが段取りよく進めてまとめて下さったので助かりましたがメンバーが分かってから本番までが短くて焦りました。
- ・上手く話せなくても待ってくれた。
- ・積極的に会話してくれるメンバーだったので助かった。
- ・役割分担、意見の出し合いはスムーズに進んだので楽しかったです。しかし発表までの期間が短かったので少し急ぎ足になりました。
- ・スムーズに進み困ることはなかった
- ・プレゼンをやることで、自分の関心のある分野を英語で表現できるようになった。プレゼンの準備期間がもう少しほしかった。
- ・楽しかったです。授業内では英語で話すよう心掛けていたので、英語力の向上にも繋がったと思います。
- ・楽しかった。3人で協力できた。プレゼンテーションの準備時間がもう少し長ければもっと完成度が高まったのではないかと思います。
- ・それぞれがやるべきことを分担して取り組めたので、スムーズに進めることが出来たと思う。2人とも気さくで話やすく楽しかった。

- ・英語でのプレゼンテーションをする機会はあまりないので慣れないことが多かったが、だからこそ密に協力して細かいこともやりとりしながら意味のある時間が過ごせたと思う
- ・まとめる人、意見を言う人など役割がそれぞれ分かれていたので活動しやすかったです。
- * グループワーク自体は、メンバー同士が協力してこなせたという回答が多いが、グループワークの中心課題であるプレゼンテーションが短期間だったために、まとめ上げるのに困難を感じた学生が多かったと見られる。その中でもなんとか最後までやれた、という充実感も感じ取れる。プレゼンの課題と期間については今後の課題である。

<自由記述 2>

この研修は、あなたにとってどんな意義がありましたか。率直に感じたこと、思ったことを自由にご記入ください。

- ・英語について机上の勉強は大学受験・TOEIC 含め何年もやってきているが、スピーキングについて本格的に取り組んだことがなかったので今後の英語学習のいい動機付けになった。また、自分の英語がネイティブに伝わり、コミュニケーションがとれることの楽しさを肌身をもって感じたので自信につながった。
- ・海外の同年代の人との交流を通じて、考え方や他者との関わり方を学ぶことができた。
- ・ニュージーランドにあまり馴染みがなかったので、文化や慣習を直接知ることができました。
- ・この研修は、第一に国際交流の実践が可能な機会であるという点、第二にレクチャーにて英語を学ぶ姿勢を見つめ直す事が可能な機会であるという点にて非常に意義がありました。一点目について、マッセイ大学の学生さんとの交流を通して多様なバックグラウンドを持つ人々が居られることを直接肌で感じたことにより、国際交流の必要性を痛感して今後もそのような交流に挑戦しようと意気込むことができました。二点目について、英語母語話者の先生による生の授業の受講を通して、より積極的に授業に参加しようとする態度の重要性に改めて気が付きました。この点については、英語に限った事ではないですが、英語を話す上では更に活発な姿勢が求められていると感じました。総じて、貴重な経験を得た3日間でした。
- ・英語で授業中を受けたり、話したりすることは大学の授業であったのですが、ネイティブの方と専門的な知識も踏まえた会話や講義を受けたのは初めてだったのでとても有意義な時間でした。
- ・母語以外を話すことへの苦手意識を減らす。
- ・日本で生活している場合、英語でコミュニケーションを図ること自体が少ないので、この研修を通して現地の人が実際に話す英語を通じて勉強することで、良い経験になった。
- ・ネイティブスピーカーの話す速度、発音からただ単語知っているだけでは理解に時間がかかることが分かりました。自分の英語力に自信がないことから消極的になってしまいましたが、間違ってもいいから話すことが重要であると再認識した。
- ・英語力の成長
- ・英語で言いたいことを増やせるようになり、英語をさらに勉強する動機づけとなった。
- ・自分の思っていることを英語で話すことが難しいと感じました。
- ・英語力の向上
- ・アメリカ英語に慣れているので、ニュージーランド訛りの英語を生で聞けたという意味でもとても楽しかった。また、日常生活で英語を使っている人と交流することで、英語を聞き取り自分の言葉で返す能力が向上したと思う。
- ・なんでも積極的に取り組み、そして挑戦することの重要性を改めて感じる事ができた。
- ・このようなご時世なので仕方ないことですが、せめて同じグループの人とは対面で会いたかったと言うのが正直な気持ちがあります。しかしオンラインでも目的であった英語力の向上は達成できたと思います。

* 最も多かったのは「研修を通して、英語力を聞く、話すことへの楽しさと困難さを実感し、英語力向上への強い動機づけになった」という趣旨の感想である。英語圏の学生交流の経験、ニュージーランドへの興味関心、にも意義を感じている学生もあった。

<自由記述 3>

研修全体を通して、困ったことや改善してほしいことはありましたか。また、今後の海外研修プログラムへの要望など、自由にご記入ください。

- ・レベル別の研修が拡充されるとより良いと思う。
- ・やはり現地に行って研修を受けたいと思った。
- ・2日目の午前のクラスで20分ほど延長があったので、スケジュールリングを見直してほしい
- ・オンラインでの海外研修の実施を是非継続していただきたいです。
- ・英語のレベル分けがあったけれど活動内容に反映されていたかはあまり分からなかったこと。プレゼンの準備期間が短かったこと。グループでプレゼンをするならもう少し早くメンバーを知りたい。そしてテーマがあると準備期間が短くても考えやすいかなと思った。

- ・特になし。
- ・マッセイに行きたい
- ・経済の講義は事前知識がないと少し難しいと思います。そのため日本語の訳が欲しいなと思いました。
- ・ない
- ・マッセイ大学の学生との交流を1対1にしてほしかった。研修の内容に経済だけではなく文化の要素を入れても良いと思った。
- ・特にないです。
- ・とくになし
- ・特にありません。
- ・特にありません。
- ・上記で書いたように少しでも対面があればまあ少し親睦が深められてスムーズな話し合いができたかもしれないと感じました。

* 学生の英語力には幅があったものの、グループ分けは、それを考慮せず男女比のみ調整しての混合グループで行ったが、メンバーの英語レベルに関する言及が若干見られる。研修プログラムの時間延長、プレゼンのための準備期間の短さ、講義のジャンルについては今後の検討課題となろう。